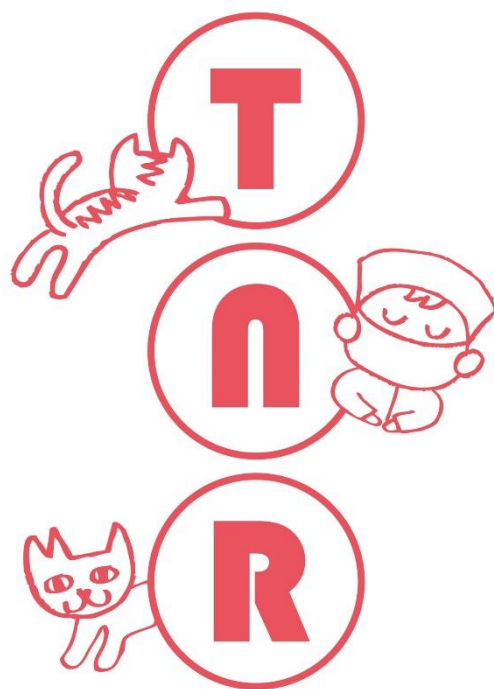


お初天神さくらねこTNRプロジェクト 実施報告書



doubutukikin since 1988

主 催：公益財団法人どうぶつ基金

共 催：曽根崎お初天神通り商店街会・露天神社

曽根崎二丁目北町会・曽根崎二丁目南町会

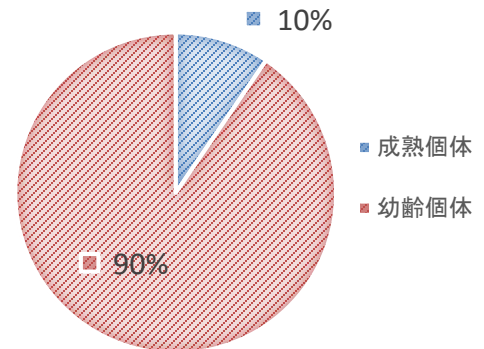
協 力：キタ歓楽街浄化推進協議会

期 間：平成28年6月29日（手術日）

大阪府の現状

平成26年度環境省調べのデータによると、大阪府は年間4,185頭の猫を殺処分している。その中で、離乳前の子猫は3,786頭にのぼり、殺処分数の90%を占める。言い換えれば、大阪府はTNRを実施することで、90%の殺処分を予防することができる地域といえる。

大阪府殺処分数割合



自治体名	猫									
	引き取り数				処分数					
	飼い主から		所有者不明		返還数	返還数のうち 幼齢個体	譲渡数	譲渡数のうち 幼齢個体	殺処分数	殺処分数のうち 幼齢個体
	成熟 個体	幼齢の 個体	成熟 個体	幼齢の 個体						
大阪府	103	84	11	1,310	0	0	65	55	1,454	1,347
大阪市	116	40	57	1,889	1	0	127	106	2,051	1,823
堺市	15	13	15	168	2	0	41	38	161	137
高槻市	1	0	0	87	0	0	15	15	73	72
豊中市	11	0	0	97	0	0	7	7	101	90
東大阪市	26	29	1	273	0	0	20	15	312	286
枚方市	1	0	2	37	0	0	9	8	33	31
合計	273	166	86	3,861	3	0	284	244	4,185	3,786

曽根崎お初天神商店街

現在の商店街は、お初神社への参拝客以外に、梅田界隈で働くビジネスマンやOLの食事処として昼夜賑わっています。今では大阪の北・梅田界隈で最も親しみやすい商店街としてその歴史と共に根づいております。

©2000-2016 お初天神通り商店街会HPより引用

曾根崎二丁目エリア状況（申請時）

曾根崎二丁目エリアは飲食店が300店舗密集している地域で、飼い主のいない猫においては糞尿等の臭いの問題や、飲食店店主とエサを与えている方とのトラブルが発生し、以前から問題視されていました。平成28年1月より、曾根崎お初天神通り商店街会と曾根崎二丁目北町会と、飼い主のいない猫に対するエサやりや清掃、ねこの不妊手術をボランティアで実施している方と話し合い、連合で約30数匹のねこの不妊手術を行ってきましたが、なかなかおいつかないので、今回、露天神社、曾根崎二丁目南町会も含め、約50頭ほどのTNR活動を行いたいという目的で申請します。

（申請書より抜粋）



出張手術実施前の様子。

商店街のいたるところに掲示されている餌やり禁止看板。

健康状態が心配な子猫も多く見かけた。

お初天神通りにある露天神社の境内に、どうぶつ基金の手術車を乗り入れ、テントを張り手術を実施した。猫の保護場も同様に境内にテントを張り、雨を凌げるスペースを確保した。



露天神社境内（外観）



テント内



露天神社境内に、手術車を乗り入れた



執刀は手術車の中で実施

手術日

6月29日（水）	
9：00	会場設営
9：30	朝礼
9：45	手術開始
12：00	昼休憩
13：30	手術再開
15：00	手術終了
16：00	撤収完了・終礼

協働人数（手術日）

所属	人数
どうぶつ基金	スタッフ3名 獣医師3名
曽根崎二丁目北町会	4名
曽根崎二丁目南町会	1名
お初天神通り商店街会	8名
その他ボランティア	10名

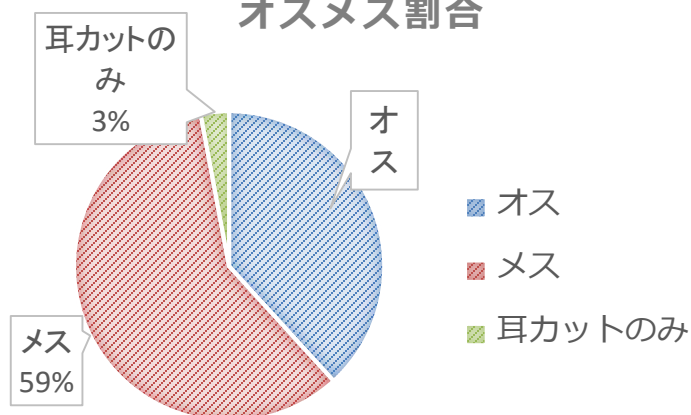
捕獲器・ケージ使用台数

所持者	捕獲器	ケージ
どうぶつ基金	100台	10台

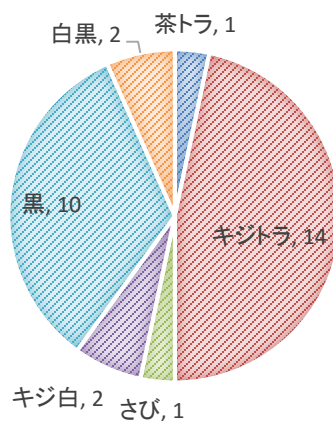
手術数

	オス	メス	耳カットのみ	計
6月29日	13	20	1	34

オスメス割合



毛色割合

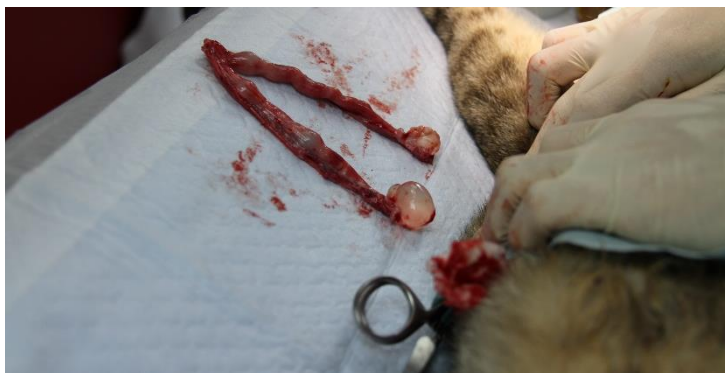


処置内容

不妊去勢手術、ノミ・ダニ・回虫の駆除薬（レボリューション）、ワクチン、点眼、補液 50cc

特別処置

不妊去勢手術に運ばれてきた猫が、怪我や病気を持っていた場合は、できる限りの治療を実施す。



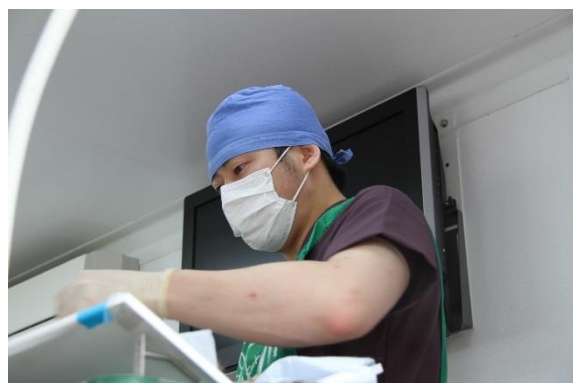
卵胞膿腫が見つかった猫の手術。



●山口獣医師長（執刀医）



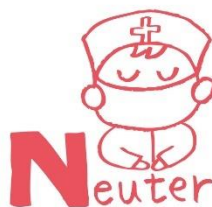
●稲葉獣医師（執刀医）



●後藤獣医師（執刀医ボランティア参加）



捕獲して



不妊手術をしてサクラ耳カット



元の場所に戻る

手術会場の様子

doubutukikin



●手術前に全員で朝礼を行う



●手術待ちの猫たち



●安定剤、麻酔、抗生剤、ワクチンを打つ



●手術前に、お腹の毛刈りや耳カットを行う



●不妊去勢手術



●猫が手術を受けている間にケージを洗浄

手術会場の様子

doubutukikin



- 1頭ごとに手術器具を洗浄し消毒する



- 術後ケアとして、補液や目薬、消毒、耳掃除をおこなう



- 術後の猫は一晩安静にする



- 境内の掲示板



- 餌やり禁止の看板は上から、さくらねこのポスターが貼られていた



- 多くの関係者の方やボランティアが参加した

Sakura Neko
TNR

●2016年6月30日 産経新聞

34匹一斉不妊手術 耳に印

「野良」↓「さくら」 猫も地域も幸せに

捕獲した野良猫の手術準備をする町会メンバーら。大阪市北区

曽根崎・堂山

長年、猫の鳴き声や糞尿による異臭に悩まされてきた大阪・キタの商店街会と町会、地元露天神社（お初天神）は29日、曽根崎・堂山エリアの野良猫34匹の一斉不妊去勢手術を行った。野良猫問題を解決するためには繁殖を防ぐことが肝要だとして、猫の「殺処分ゼロ」に全国規模で取り組む兵庫県の法人に依頼。将来的にはキタ全域で実施し、猫との平和的共存を目指すという考えだ。（服部素子）

「お初天神さくらね」店街会と露天神社、曽根崎二丁目北・南振興町会。昨秋、根崎エリアで野良猫に餌をやるのは、曽根崎お初天神通り商

「お初天神さくらね」店街会と露天神社、曽根崎二丁目北・南振興町会。昨秋、根崎エリアで野良猫に餌をやるのは、曽根崎お初天神通り商

不妊去勢手術済みの印として片耳の先が桜の花びらの形にカットされた「さくらね」どうぶつ基金提供

けようとした店がトラップになつたのがきっかけだった。双方を知る同商店街会のメンバーが間にあって話を聞く中で、飲食店側が野良猫被害に手を焼く一方、キタへ来る客から猫の健康状態の悪さを心配する声があがっていることと野良猫問題の解決策は繁殖を防ぐことと餌つげした猫に自費で不妊去勢手術を施している人がいることと猫の「殺処分ゼロ」の実現を目指して全国で不妊去勢手術の推進活動をしている公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫県芦屋市）の存在を知ったという。これらの情報を基に同商店街会と地元2町会、キタのまちづくり構想を担うキタ歓楽街環境浄化推進協議会も交えて対策を検討。今年1月に予算を組んで曽根崎エリアの野良猫調査を始め、半年間で40匹に不妊去勢手術を行った。

殺処分を回避 鳴き声・異臭問題軽減

同時に、餌やりをする人にも掃除などのルールを決め、承諾した9人に、町会と商店街会からボランティア許可証を発行するなどの対策も取った。

しかし、エリアに想定以上の猫がいることが判明。同基金に相談したところ、今回のプロジェクトの実施が決まり、同基金が無料で手術を行うことになった。

そこで、今月26日から商店街会、両町会のメンバーやボランティアが周辺に100台の捕獲器を設置。捕獲した34匹を移動手術車に運び、獣医師が手際よく手術した。手術済みの印として、片耳の先を桜の花びらの形にカットした。

同基金の佐上邦久理事長（56）は全国で年間約8万匹、府内では4185匹（平成26年度）の猫が殺処分されている。そうした不幸な命をつくりださないためにも、キタの野良猫をすべて「さくらねこ」にし、招き猫として見守ってもらいたいと話している。

産経新聞

平成28年(2016) 日刊26406号
6/30 [木]
産経経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産経経済新聞大阪本社 2016
〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57

●2016年6月30日 産経ニュース



お葬式を事前に考える方が増えています-イオンのお葬式 [PR]

2016.6.30 07:02

文字の大きさ 小 中 大 印刷

不妊手術の証しは花びら形の耳 野良猫に一齐施術、「さくらねこ」に 大阪

[Twitter](#) [Facebook](#) [おすすり](#) [G+](#) [印刷](#)

長年、猫の鳴き声や糞尿（ふん）による異臭に悩まされてきた大阪・キタの商店街と町会、地元の露天（つゆのてん）神社（お初天神）は29日、曾根崎・堂山エリアの野良猫34匹の一齐不妊去勢手術を行った。野良猫問題を解決するためには繁殖を防ぐことが肝要として、猫の「殺処分ゼロ」に全国規模で取り組む兵庫県の法人に依頼。将来的にはキタ全域で実施し、猫との平和的

共存を目指したいと考えた。（服部素子）

「お初天神さくらねこTNRプロジェクト」と名付けられたこの取り組みを発案したのは、曾根崎お初天神通り商店街と露天神社、曾根崎二丁目北・南振興町会。昨秋、曾根崎エリアで野良猫に餌をやっていた人と、捕獲器を仕掛けようとした店がトラブルになったのがきっかけだった。

双方を知る同商店街会のメンバーが間に入って話を聞くと、飲食店側が野良猫被害に手を焼く一方、キタへ来る客から猫の健康状態の悪さを心配する声があがっていることや、餌付けした猫に自費で不妊去勢手術を施している人がいること、猫の「殺処分ゼロ」の実現を目指して全国で不妊去勢手術の推進活動をしている公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫県芦屋市）の存在を知ったという。

これらの情報を基に同商店街会と地元2町会、キタのまちづくり構想を担うキタ軟条街環境浄化推進協議会も交えて対策を検討。今年1月に予算を組んで曾根崎エリアの野良猫調査を始め、半年間で40匹に不妊去勢手術を行った。

同時に、餌やりをする人にも排除などのルールを決め、承諾した9人に、町会と商店街会からボランティア許可証を発行するなどの対策も取った。

しかし、エリアに想定以上の猫がいることが判明。同基金に相談したところ、今回のプロジェクトの実施が決まり、同基金が無料で手術を行うことになった。

そこで、今月26日から商店街会、両町会のメンバーやボランティアが周辺に100台の捕獲器を設置。捕獲した34匹を移動手術車に運び、獣医師が手際よく手術した。手術済みの印として、片耳の先を桜の花びらの形にカットした。

同基金の佐上邦久理事長（56）は「全国で年間約8万匹、府内では4185匹（平成26年度）の猫が殺処分されている。そうした不幸な命をつくりださないためにも、キタの野良猫をすべて『さくらねこ』にし、招き猫として見守ってもらいたい」と話している。

◇TNR Trap（捕獲）、Neuter（不妊手術）、Return（元の場所に帰す）の頭文字。殺処分を減らし、野良猫の鳴き声や異臭問題を解決する手法として知られる。「さくらねこ」は手術済みの猫を飼って再手術しないよう、片耳の先を桜の花びらのようにカットすることからの呼称。TNRの成否は「すぐやる」「全部やる」「続ける」の3つが鍵とされており、公益財団法人「どうぶつ基金」は昨年度、全国で8046匹に「さくらねこ無料不妊手術」を実施した。

●2016年6月29日 産経WEST



今一瞥選んでいるお葬式プラン、「家族葬」って何？ [PR]

2016.6.29 20:47

文字の大きさ 小 中 大 印刷

野良猫増加に「殺処分ゼロ」の一手...大阪・曾根崎で34匹に一齐不妊手術 被害コリゴリ、平和的共存で招き猫に

(1/3ページ)



不妊去勢手術済みの印として、片耳の耳先を桜の花びらの形にカットされた「さくらねこ」（どうぶつ基金提供）

長年、猫の鳴き声や糞尿（ふん）による異臭に悩まされてきた大阪・キタの商店街と町会、「曾根崎中心」ゆかりの露天（つゆのてん）神社（お初天神）は29日、曾根崎・堂山エリアの野良猫約30匹の一齐不妊去勢手術を行った。野良猫問題を解決するためには繁殖を防ぐことが肝要として、猫の「殺処分ゼロ」に全国規模で取り組む法人に依頼。将来的にはキタ全域で実施し、猫との平和的共存を目指したいと考えた。（服部素子）

「さっかけは「餌付け派」「捕獲派」のトラブル

「お初天神さくらねこTNRプロジェクト」と名付けられたこの取り組みを発案したのは、曾根崎お初天神通り商店街と露天神社、曾根崎二丁目北・南町会。昨秋、曾根崎エリアで野良猫に餌をやっていた人と、捕獲器を仕掛けようとした店がトラブルになったのがきっかけだった。

双方を知る同商店街会のメンバーが間に入って話を聞くと、飲食店側が野良猫被害に手を焼く一方、キタへ来る客から猫の健康状態の悪さを心配する声があがっていることや、餌付けした猫に自費で不妊去勢手術を施している人がいることが分かった。野良猫問題の解決には繁殖を防ぐことが必要として懸念する中で、猫の「殺処分ゼロ」の実現を目指して全国で不妊去勢手術の推進活動をしている公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫県芦屋市）の存在を知ったという。

[Twitter](#) [Facebook](#) [おすすり](#) [G+](#) [印刷](#)

(2/3ページ)



不妊去勢手術済みの印として、片耳の耳先を桜の花びらの形にカットされた「さくらねこ」（どうぶつ基金提供）

これらの情報を基に、同商店街会や地元2町会のほか、キタのまちづくり構想を担うキタ軟条街環境浄化推進協議会も交えて対策を検討。今年1月に予算を組んで曾根崎エリアの野良猫調査を始め、半年間で40匹に不妊去勢手術を行った。

同時に、餌やりをする人にも排除などのルールを決め、承諾した9人に、町会と商店街会からボランティア許可証を発行するなどの対策も取った。

「桜の花びら形耳先」が去勢手術の目印に

しかし、エリアに想定以上の猫がいることが判明。同基金に相談したところ、今回のプロジェクトの実施が決まり、同基金が無料で手術を行うことになった。

手術を行うことになった。

今月26日から商店街会、両町会のメンバーやボランティアが周辺に100台の捕獲器を設置。捕獲した34匹を移動手術車に運び、獣医師が手際よく手術した。手術済みの印として、片耳の先を桜の花びらの形にカットした。

同基金の佐上邦久理事長（56）は「全国で年間約8万匹の猫が殺処分されている。そうした不幸な命をつくりださないためにも、キタの野良猫をすべて『さくらねこ』にし、招き猫として見守ってもらいたい」と話している。

◇

さくらねこTNRプロジェクト 「TNR」

R」は、Trap（捕獲）、Neuter（不妊手術）、Return（元の場所に帰す）の頭文字の略。殺処分を減らし、野良猫の鳴き声や異臭問題を解決する手法として知られる。「さくらねこ」は手術済みの猫を飼って再手術しないよう、片耳の先を桜の花びらのようにカットすることからの呼称。TNRの成否は「すぐやる」「全部やる」「続ける」の3つが鍵とされており、公益財団法人「どうぶつ基金」は昨年度、全国で8046匹に「さくらねこ無料不妊手術」を実施した。



お初天神さくらねこTNRプロジェクトの出張手術は、曾根崎お初天神通り商店街会、露天神社、曾根崎二丁目北町会・曾根崎二丁目南町会、キタ歓楽街浄化推進協議会の協力のもと無事終了した。今回の出張は、あくまでも始まりであり、これをきっかけに、キタ歓楽街全体がさくらねこの街となるよう他エリアでのさくらねこTNR実施展開に向けて調整が進められている。

また、毎日多くの人を訪れるためお初天神通り商店街のような大規模な繁華街で命を尊重しながら共生の道を歩む「さくらねこTNR」の取り組みが成功し、全国の猫問題に悩む商店街会の見本となるようなモデルケースとなることに期待が高まる。



公益財団法人どうぶつ基金
曽根崎お初天神通り商店街会
露天神社
曽根崎二丁目北町会
曽根崎二丁目南町会
キタ歓楽街浄化推進協議会